

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 ス乙第7号

看護師の職務不満足に影響を及ぼす衛生要因の検討

(Examination of Hygiene Factors Influencing on Job Dissatisfaction among Nurses)

水野 基樹 (みずの もとき)

博士 (スポーツ健康科学)

論文内容の要旨

近年の著しい医療技術の進歩は、人間の生命や健康の保持・増進に寄与する一方、医療技術の高度化・複雑化、疾病の多様化などにより、看護師の労働環境をよりストレスフルなものにしている。そのため、看護師の離職対策や次世代育成支援を実現させていくために、看護師が現在の職務に対して満足感(職務満足)を抱きながら働き続けることができる労働環境をデザインする必要がある。

そこで本研究は、Herzberg(1968)の2要因理論を援用し、看護師の職務不満足を誘発する可能性のある衛生要因を明らかにすることを目的とした。日本の看護師は94.9%が女性であることから、働く女性を対象として研究が進められてきたワーク・ファミリー・コンフリクト(WFC)と看護師の職務ストレスを衛生要因に想定し、それらが職務不満足にどの程度寄与しているかを明らかにする横断研究をおこなった。

研究方法は、大学病院に勤務する女性看護師(合計1,074名)を対象に、職務不満足の評価、ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度日本語版(WFCS)、看護師の職務ストレス尺度(NJSS)、フェイスシートを用いた質問紙調査を実施した。その後、職務不満足得点を従属変数、WFCS及びNJSSの得点を独立変数とするロジスティック回帰分析(LRA)を実施した結果、WFCSにおいては、時間WIF(adjusted OR=3.09)、ストレスWIF(adjusted OR=2.35)、行動FIW(adjusted OR=2.05)、NJSSにおいては、仕事の量的負担(adjusted OR=3.99)、同僚関係(adjusted OR=2.11)、仕事の質的負担(adjusted OR=2.02)、患者関係(adjusted OR=1.81)が職務不満足の高さに寄与しているという結果が示された。これらの要因は、2要因理論の知見と大きく矛盾しない結果であり、日本の看護師特有の衛生要因として示唆された。これらの情報をもとに職場改善をおこなうことにより、職務不満足が発現しない快適な労働環境を提供できると考えられた。